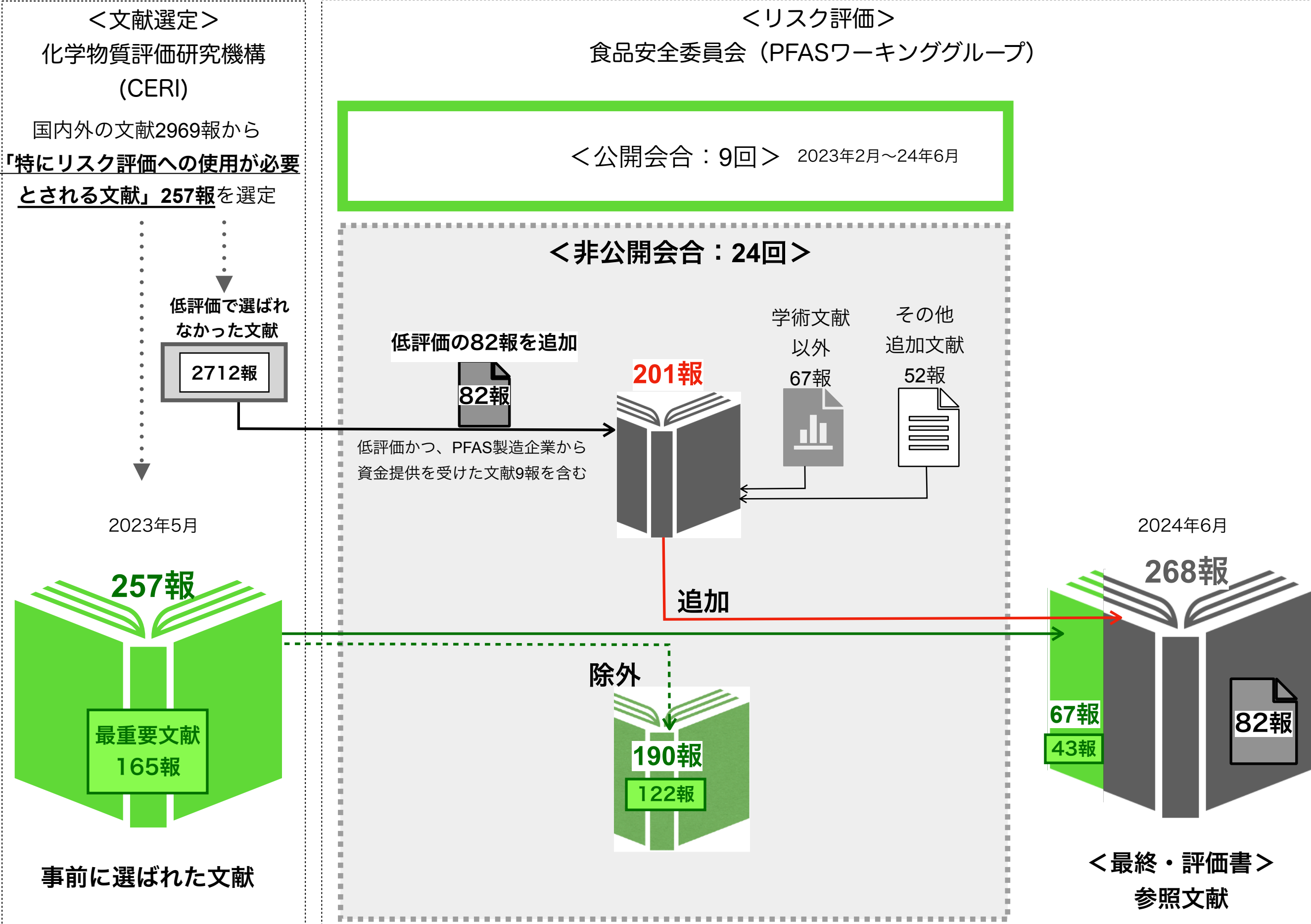


# 安全の“裏側”について

～私たちの安全を守る指標値はどう決められたのか～

# 内閣府・食品安全委員会PFASリスク評価で何が行われていたか（2023年～24年）



# 「PFAS評価書」 文献差し替え問題

国会・委員会でも10回にわたり、取り上げられた。

3月7日	衆議院 内閣委員会 上村英明議員	4月21日	参議院 決算委員会 川田龍平議員
3月24日	参議院 環境委員会 川田龍平議員	5月29日	参議院 決算委員会 川田龍平議員
<b>3月28日</b>	<b>参議院 予算委員会 川田龍平議員</b>	6月3日	衆議院 環境委員会 松下玲子議員
4月9日	参議院 決算委員会 川田龍平議員	6月6日	参議院 本会議 川田龍平議員
//	<b>＜非公開会合リスト(全24回) 日付&amp;出席者リスト開示＞</b>		
4月15日	参議院 環境委員会 川田龍平議員	6月12日	参議院 環境委員会 川田龍平議員
4月18日	食安委 中事務局長ら川田議員訪問「2000ページ 開示する」	6月13日	＜非公開会合・5回分の配布資料開示＞
		6月30日	＜非公開会合・12回分の配布資料開示＞7回分は欠落

(2025年3月28日：参議院予算委員会)

「PFAS問題について、やり直しも含めて検討いただきたい」と問われた首相、

石破茂 前内閣総理大臣：(2025年3月28日：参議院予算委員会にて)

「これはもう人の安全、健康に関わることでございますから（略）  
やはり公開ということが大事であって、包み隠すことなく議論を公開してゆくとい  
うこと、そして科学的検知に基づいて厳正に判断されるというために政府として努  
力を致してまいります。」

<非公開会合リスト(全24回) への参加者リスト>

令和7年4月9日 食品安全委員会

PFAS ワーキンググループ 準備作業への参加者

	日付	参加者（専門委員又は専門参考人）
1	2023.4.19	伊藤佐智子、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、澤田典絵、祖父江友孝、龍田希、中山祥嗣、西浜柚季子、姫野誠一郎、広瀬明彦、福島若葉
2	2023.4.20	石塚真由美、小池英子、渋谷淳、田中徹也、姫野誠一郎、森田健
3	2023.4.21	姫野誠一郎、松井徹、吉成浩一
4	2023.5.19	浅見真理、中山祥嗣、姫野誠一郎
5	2023.5.26	浅見真理、石塚真由美、伊藤佐智子、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、小池英子、渋谷淳、祖父江友孝、龍田希、田中徹也、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、広瀬明彦、福島若葉、松井徹、森田健、吉成浩一
6	2023.6.15	姫野誠一郎、松井徹、吉成浩一
7	2023.6.22	浅見真理、石塚真由美、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、澤田典絵、渋谷淳、祖父江友孝、龍田希、田中徹也、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、広瀬明彦、福島若葉、松井徹、森田健
8	2023.7.27	浅見真理、池田敦子、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、小池英子、澤田典絵、祖父江友孝、田中徹也、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、広瀬明彦、福島若葉、松井徹、森田健、吉成浩一
9	2023.8.24	浅見真理、中山祥嗣、姫野誠一郎、広瀬明彦、松井徹、吉成浩一
10	2023.9.12	池田敦子、苅田香苗、岸玲子、田中徹也、姫野誠一郎
11	2023.9.13	黒田悦史、龍田希、中山祥嗣、西浜柚季子、福島若葉
12	2023.9.25	黒田悦史、龍田希、中山祥嗣、西浜柚季子、福島若葉
13	2023.9.28	浅見真理、池田敦子、石塚真由美、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、小池英子、澤田典絵、祖父江友孝、龍田希、田中徹也、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、広瀬明彦、福島若葉、松井徹、森田健
14	2023.10.10	澤田典絵、祖父江友孝、姫野誠一郎
15	2023.10.18	浅見真理、池田敦子、石塚真由美、苅田香苗、川村孝、黒田悦史、澤田典絵、渋谷淳、祖父江友孝、龍田希、田中徹也、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、福島若葉、松井徹、森田健、吉成浩一
16	2023.10.24	石塚真由美、小池英子、渋谷淳、姫野誠一郎、吉成 浩一
17	2023.10.24	姫野誠一郎、松井徹、吉成浩一
18	2023.12.4	浅見真理、池田敦子、石塚真由美、苅田香苗、川村孝、岸玲子、黒田悦史、小池英子、澤田典絵、祖父江友孝、中山祥嗣、西浜柚季子、長谷川健、姫野誠一郎、福島若葉、松井徹、吉成浩一
19	2023.12.15	澤田典絵、渋谷淳、祖父江友孝、姫野誠一郎
20	2023.12.20	池田敦子、龍田希、中山祥嗣、姫野誠一郎、広瀬明彦、松井徹
21	2023.12.25	池田敦子、龍田希、中山祥嗣、姫野誠一郎、広瀬明彦、松井徹
22	2024.1.15	浅見真理、池田敦子、龍田希、中山祥嗣、姫野誠一郎、広瀬明彦、松井徹
23	2024.4.9	姫野誠一郎
24	2024.4.19	浅見真理、池田敦子、祖父江友孝、龍田希、中山祥嗣、姫野誠一郎、松井徹

2025年4月9日

食品安全委員会から川田龍平 前参議院議員に  
対して示された資料

「免疫」「発がん性」など重要論点について話し合った7回分は  
配布資料が欠落した



# 情報開示請求結果

開示請求日： 2025年4月21日（4月24日受付）

開示請求内容： ・ **全24回の非公開会合に関して食品安全委員会にて作成・取得された一切の記録**  
（録音データ、文書、メールを含む）  
・ **PFAS WG座長 姫野誠一郎氏と食品安全委員会事務局との間でやりとりされたメール**

開示決定日： （1回目）2025年6月23日、 （2回目）2025年7月22日

開示結果： **開示された記録：（約1300ページ）**  
・ 24回の非公開会合のうち、17回分の会合での配布資料（議事次第、委員名簿、選定された文献（コメント入り）、PFAS評価書（案）など）  
・ 旅費確認書

開示されなかった記録：

- ・ **全24回の非公開会合の議事録（文字、音声）、および、メール**
- ・ **24回の非公開会合のうち、7回分の配布資料**

**発がん性との関連やTDIなど重要論点について  
話し合った非公開会合（7回分）については  
一切の配布資料が欠落した**



「免疫」（非公開会合11回目：9月13日）  
「免疫」（非公開会合11回目：9月13日）  
「発がん性」（非公開会合14回目：10月10日）  
「用量反応モデリング」（非公開会合17回目：10月24日）  
「発がん性」（非公開会合19回目：12月15日）  
「食品健康影響評価」（非公開会合21回目：12月25日）＊TDI  
「座長」（非公開会合23回目：2024年1月26日）

不透明なリスク評価の結果、導き出された、20ngの根拠は開示されなかった

開示された資料 (例) 選定された文献 (コメント入り)、担当分野

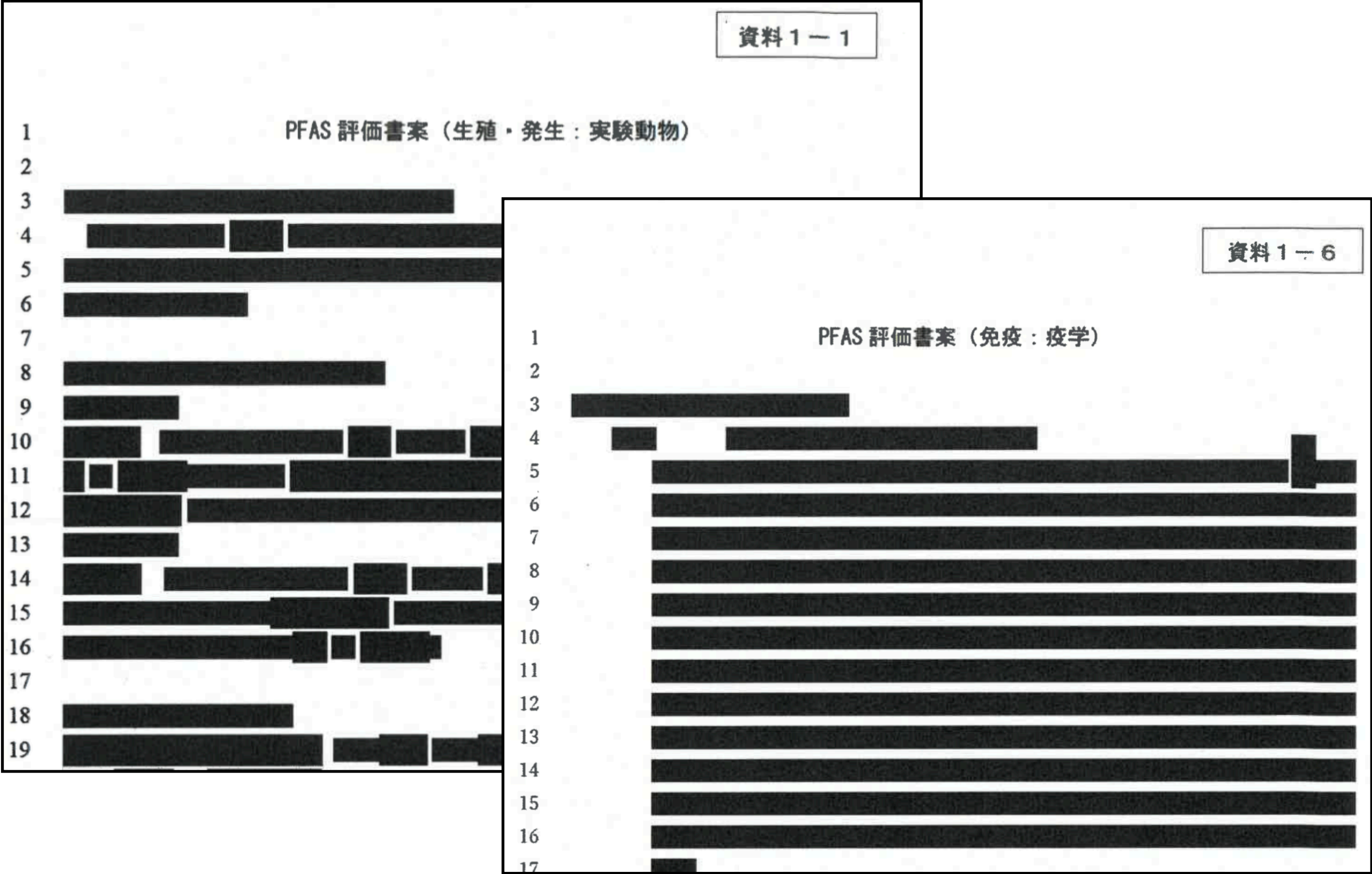
先生方からのコメント (疫学)										資料 2				
通し No.		No.	エンドポイント	詳細	評価機関	Title	年	著者	雑誌					
3	1	POD1	3 免疫		EFSA 2020	Internal exposure to perfluoroalkyl substances (PFASs) and biological markers in 101 healthy 1-year-old children: associations between levels of perfluorooctanoic acid (PFOA) and vaccine response	2020	Abraham et al.	Arch Toxicol					
4	2	POD2	3 免疫		EPA 2021 (PFOS, PFOA) EPA 2023 (PFOS, PFOA)	Application of benchmark analysis for mixed contaminant exposures: Mutual adjustment of perfluoroalkylate substances associated with immunotoxicity	2018	Budtz-Jørgensen and Grandjean	PLoS One					
5	3	POD3	3 免疫		EPA 2021 (PFOS, PFOA)	Estimated exposures to perfluorinated compounds in infancy predict attenuated vaccine antibody concentrations at age 5-years	2017 a	Grandjean et al.	J Immunotoxicol					
6	4	POD4	3 免疫		EPA 2021 (PFOS, PFOA)	Serum vaccine antibody concentrations in adolescents exposed to perfluorinated compounds	2017 b	Grandjean et al.	Environ Health Perspect					
7	5	POD5	3 免疫		EPA 2021 (PFOS, PFOA) EFSA 2018	Serum vaccine antibody concentrations in children exposed to perfluorinated compounds	2012	Grandjean et al.	JAMA					
8	6	881	3 免疫			Effect of prenatal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances on childhood allergies and common infectious diseases in children up to age 7 years: The Hokkaido study on environment and children's health	2020	Ait Bamai et al.	Environ Int					

PFAS 担当分野				資料 1	
分野	通し No.	エンドポイント (括弧内は文献数)	ご担当委員		
ヒトにおける影響	3-22	免疫 (母体ばく露を含む) (20)			
	23-62	生殖・発生 (40)、			
	1-2, 63-66, 67-100, 101-105, 139-142	神経 (2)、心血管 (4)、代謝 (34)、腎臓 (5)、リスク評価 (4)			
	106-125, 126-136, 137-138	内分泌 (20)、発がん性 (11)、その他 (2)			

→選定された文献ごとの委員の評価 (コメント) も、担当委員名も、全て黒塗り。



開示された資料 (例) 「PFAS評価書案」



→非公開会合の議論をまとめた評価書案の本文など、とくに健康影響が否定できなかった分野（生殖発生、免疫、肝臓・脂質代謝、発がん）については文書の大半が黒塗り。

開示結果から判明したこと①

非公開会合の開催時間は2倍以上

旅 費 確 認 書

審議会等名： 食品安全委員会第3回有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ／打合せ会

開催日 令和5年9月28日

開催場所 食品安全委員会事務局 中会議室

(予 定) 14:00 ～ 18:00

(実時間) 14:00 ～ 17:53

【専門委員】

氏名	出欠	旅費	兼職の有無	兼職している他の審議会等名	出発地		到着駅	帰着地		航空機の利用	宿泊の有無	座長レク 事前レク	謝金		備考 (旅行、旅費調整が必要な理由など)
					最寄駅			最寄駅					委員手当	報酬 (在宅謝金)	
石塚 真由美	○	web	○	内閣府食品安全委員会 動物用医薬品専門調査会 専門委員 内閣府食品安全委員会 ぶどう酒ワーキンググループ 専門委員 内閣府食品安全委員会 添加物専門調査会 専門委員 農林水産省 動物用一般医薬品調査会 委員 環境省総合環境政策局環境保健部 化学物質審査検討委員 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会薬事分科会 委員								-	○	×	
荻田 香苗	○	web	○									-	○	×	
川村 孝	○	web	○									-	○	×	
澤田 典絵	○	web	○	内閣府食品安全委員会 評価技術企画ワーキンググループ 専門委員 内閣府食品安全委員会 添加物専門調査会 専門委員								-	○	×	
渋谷 淳	×	—	○	内閣府食品安全委員会 かび毒・自然毒等専門調査会 専門委員 農林水産省 獣医事審議会 委員 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員								-	×	○	事前コメント提出済み(メール文書)
祖父江 友孝	○	web										-	○	×	
田中 徹也	○	web	○	内閣府食品安全委員会 農薬第二専門調査会 専門委員 内閣府食品安全委員会 添加物専門調査会 専門委員								-	○	×	
中山 祥嗣	○	web	○									-	辞退	辞退	委員手当・在宅謝金は辞退

公開会合（全9回）

約21.7時間

2.4倍

非公開会合（全24回）

約51時間

・ 公開会議直後に連続して開催された非公開会合では予定時間は一体として管理されていた。

・ 最長は3時間53分

(予定)


公開会合（第3回） 令和5年9月28日（木） 14:00～15:46

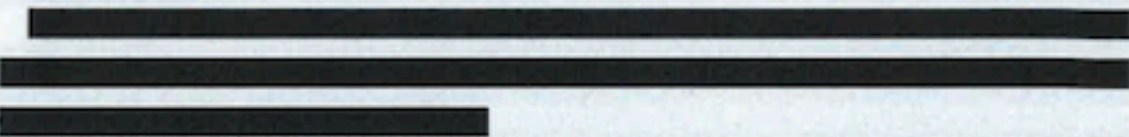
非公開会合（13回目） 令和5年9月28日（木） 15:46～17:53

1 なく、現時点での評価は困難である。

【事務局より】

7/27 の打合せ会における議論を踏まえつつ、事務局にて一部修文いたしました。再度ご確認ください、修正をお願いいたします。

【 コメント】



2

7/27 打合せ会でのコメント

- 
- 
- 
- 
- 
- 

3

6/22 打合せ会でのコメント：

- 
- 

13-3 資料2, PFAS評価書（案）【発がん性】 , p.16

## 「打合せ会のコメント」 22カ所

→非公開会合(＝打合せ会) で出た意見が  
リスク評価書に反映されていた。

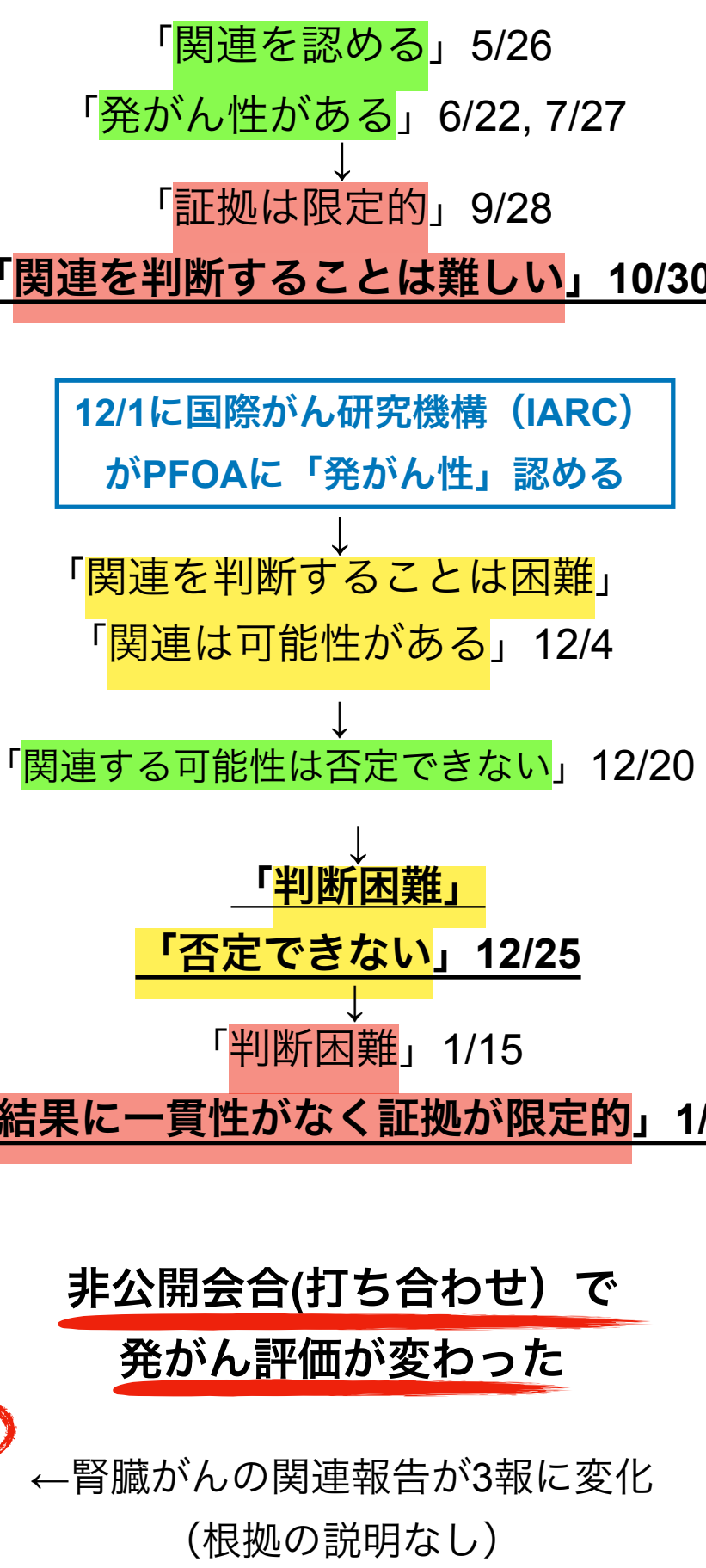
非公開会合は準備作業ではなくて、  
**実質的なリスク評価**をしていた。

だが、その議論が公開されていない。




開示資料から判明したこと③：「腎臓がん」発がん性の有無が非公開会合で変更

会合	開催日	議題	腎臓がん（PFOAとの関連）			評価書（案）の記述	関連疫学の数
			○関連あり	△両論併記	×判断困難		
第1回	2023年 2月27日						
レク①	4月18日	座長ㄱ					
1	4月19日	ヒトにおける影響	凡例: ...ワーキンググループ会合（公開） ...打合せ会、座長レク（非公開） ...欠落（「発がん性」のみ抜粋）			△両論併記＝「関連あり」と「判断困難」が混在	
2	4月20日	実験動物における影響					
3	4月21日	体内動態					
4	5月19日	ばく露					
レク②	5月24日	座長ㄱ					
第2回	5月26日	選定された文献（実験動物、疫学、体内動態）	●			「非常に理想的な、これ以上の研究はなかなかできない」「その中で関連が認められている」	
5	5月26日	全体					
6	6月15日	体内動態					
レク③	6月19日	座長ㄱ					
7	6月22日	生殖・発生、代謝、肝臓、免疫、神経、発がん性	●			「おそらく発がん性がある」	
レク④	7月25日	座長ㄱ					
8	7月27日	全体	●			「おそらく発がん性がある」	
9	8月24日	ばく露					
10	9月12日	生殖・発生					
11	9月13日	免疫		欠落			
12	9月25日	免疫		欠落			
第3回	9月28日	体内動態、肝臓、代謝（コレステロール）、神経					
13	9月28日	遺伝毒性、発がん性、肝臓、代謝・内分泌			×	「証拠は限定的」	4編
14	10月10日	発がん性		欠落			
レク⑤	10月10日	座長ㄱ					
15	10月18日	生殖・発生、免疫、ばく露					
16	10月24日	肝臓					
17	10月24日	用量反応モデリング		欠落			
第4回	10月30日	背景、PFAS概要、遺伝毒性、発がん性			×	「関連を判断することは難しい」	4編
第5回	11月24日	生殖・発生、免疫、ばく露					
レク⑥	12月1日	座長ㄱ					
		12月1日 IARC（国際がん研究機関） PFOA発がん性認める					
18	12月4日	評価書、PFAS安全性評価、発がん分類(IARC)		●		「関連があると言い難い」「関連は可能性がある【否定できない？】」	4編
19	12月15日	発がん性		欠落			
20	12月20日	食品健康影響評価	●			「関連する可能性は否定できないと判断」	
第6回	12月25日	PFASの健康影響評価		●		「関連を判断することは困難」「関連する可能性は否定できない」	4編
21	12月25日	食品健康影響評価		欠落			
22	2024年 1月15日	食品健康影響評価			×	「結果に一貫性がないため判断困難」	4編
第7回	1月26日	PFASの健康影響評価			×	「結果に一貫性がなく証拠が限定的」	3報
23	4月9日	（座長）		欠落			
24	4月19日	パブコメ					
第8回	4月26日	評価書、パブコメ			×	「結果に一貫性がなく証拠は限定的」	3編
第9回	6月20日	健康影響評価に関する審議結果			×	「結果に一貫性がなく証拠は限定的」	3編









# 開示資料から判明したこと③：「関連なし」にされた腎臓がん (Barry et al. 2013) (参照：221)

 デュポン工場からの排出で飲料水からPFOAに曝露した周辺住民と工場労働者、**7万人規模**の調査。

世界的にみても例がない規模の調査で「PFOAへの曝露と腎臓がんとの関連」が示された。

著者/評価機関	文献名, 年	評価内容	評価内容 (参考和訳)  食安委は評価書原文
著者論文 (原文)	Barry et al., 2013 (評価書：参照221)	Conclusions: <b>PFOA exposure was associated with kidney and testicular cancer</b> in this population.	結論: この集団では、 <b>PFOA への曝露が腎臓がんおよび精巣がんに関連</b> していた。
 IARC (国際がん研究機構)	IARC Monographs Volume 135, 2025	<b>Barry et al. (2013) evaluated the risk of kidney cancer, (略)</b> <b>Estimated cumulative serum PFOA concentration was associated with risk of kidney cancer.</b>	<b>Barryら (2013) は (略) 腎臓がんをはじめとするがんのリスクを評価した。 (略)</b> 推定累積 <b>血清PFOA濃度は腎臓がんのリスクと関連</b> していた。
 US EPA (米国環境保護庁)	US EPA 2024 FINAL	Specifically, two studies involving participants in the C8 Health Project <b>showed a positive association between PFOA levels (mean_at enrollment 24 ng/mL) and kidney and testicular cancers (Barry et al., 2013)</b>	具体的には、C8健康プロジェクトの参加者を対象とした2件の研究で、 <b>PFOA濃度 (登録時の平均濃度24 ng/mL) と腎臓がんおよび精巣がんとの間に正の相関</b> が示されました ( <b>Barry et al., 2013</b> )
メタ解析 (腎臓がん/4報)	Bartell & Vieira, 2021 (評価書：参照224)	Results from all meta-analysis models show <b>increases in kidney cancer risk and testicular cancer risk with increasing PFOA serum concentrations</b> , with (略) an estimated 4-16% increase in the risk of kidney cancer for each 10 ng/mL increase in serum PFOA. <Table 3. Rate ratio for kidney cancer incidence or mortality using continuous exposure metrics>, <b>Barry et al. (2013) reported a positive association of 1.03 (95% CI: 1.00-1.05).</b>	すべてのメタアナリシスモデルの結果は、 <b>PFOA血清濃度の上昇に伴い、腎臓がんおよび精巣がんのリスクが増加する</b> ことを示しており、(略) 血清PFOA濃度が10 ng/mL増加するごとに腎臓がんのリスクは推定4～16%増加するとされた。 補足：<Table 3. 継続的な曝露指標を使用した腎臓がんの発生率または死亡率の割合比>では <b>Barryら (2013) の報告では1.03 (95%CI: 1.00～1.05) と正の関連</b> を示した>
 食品安全委員会	PFAS食品健康影響 評価書,2024		推定累積血清 PFOA 濃度と「その他の部位のがん (略) <b>腎臓 (略) については関連がなかった。</b> 」

**この文献についてPFOAと腎臓がんとの「関連なし」と言っているのは日本だけ**

- ・ PFAS WGは、この文献について非公開会合（2024年1月15日）まで腎臓がんとの「関連あり」評価を維持したが、11日後の公開会合（2025年1月26日）で突如「関連なし」に評価を変更した。
- ・ これにより関連文献数は4報から3報に減少し、評価理由は「結果に一貫性がなく証拠が限定的」とされた。評価変更に至る根拠は全く明らかにされていない。



# 開示資料から判明したこと③：生殖発生「出生体重の低下」

会合	開催日	議題	出生体重の低下（PFOS、PFOAとの関連）			
			関連あり	不明	判断困難*	評価書（案）の記述
第1回	2023年2月27日					
レク①	4月18日	座長レク				
1	4月19日	ヒトにおける影響				
2	4月20日	実験動物における影響				
3	4月21日	体内動態				
4	5月19日	ばく露				
レク②	5月24日	座長レク				
第2回	5月26日	選定された文献（実験動物、疫学、体内動態）	●			「世界的に評価がほぼ統一されています」
5	5月26日	全体		●		PFAS評価書案（生殖・発生）全ページ黒塗り
6	6月15日	体内動態		●		PFAS評価書案（生殖・発生）全ページ黒塗り
レク③	6月19日	座長レク				
7	6月22日	生殖・発生、代謝、肝臓、免疫、神経、発がん		●		PFAS評価書案（生殖・発生）全ページ黒塗り
レク④	7月25日	座長レク				
8	7月27日	全体				
9	8月24日	ばく露				
10	9月12日	生殖・発生	●			「エビデンスの強さは強い」
11	9月13日	免疫		欠落		
12	9月25日	免疫		欠落		
第3回	9月28日	体内動態、肝臓、代謝（コレステロール）、神経				
13	9月28日	遺伝毒性、発がん、肝臓、代謝・内分泌				
14	10月10日	発がん性		欠落		
レク⑥	10月10日	座長レク				
15	10月18日	生殖・発生、免疫、ばく露		●		【事務局より】当日のご議論をお願いいたします。
16	10月24日	肝臓				
17	10月24日	用量反応モデリング		欠落		
第4回	10月30日	背景、PFAS概要、遺伝毒性、発がん性				
第5回	11月24日	生殖・発生、免疫、ばく露		●		【事務局より】当日のご議論をお願いいたします。 →座長「低出生体重児が増えている知見は得られてない」
レク⑥	12月1日	座長レク				
18	12月4日	評価書、PFAS安全性評価、発がん分類(IARC)	●		●	「体重が低下することが共通の知見」しかし「健康影響と捉えるかどうか明確に判断できる状況ではない」
19	12月15日	発がん性		欠落		
20	12月20日	食品健康影響評価	●		●	「関連はおそらくある」しかし「その影響の臨床的意義は判断できない」
第6回	12月25日	PFASの健康影響評価	●		●	「関連はおそらくある」ただし「在胎不当過少や低出生体重児出生の増加は一貫した結果が得られていない」
21	12月25日	食品健康影響評価		欠落		
22	2024年1月15日	食品健康影響評価				「関連は否定できない」ただし「在胎不当過小や低出生体重児の増加には一貫した結果が得られていない」
第7回	1月26日	PFASの健康影響評価	●		●	「関連は否定できないものの」「出生後の健康に及ぼす影響についてはまだ不明」
23	4月9日	（座長）		欠落		
24	4月19日	パブコメ				
第8回	4月26日	評価書、パブコメ	●		●	1月26日と同じ
第9回	6月20日	健康影響評価に関する審議結果	●		●	1月26日と同じ

「世界的に評価がほぼ統一」 5/26

「エビデンスの強さは強い」 9/12

非公開会合「評価書案」は  
全ページ黒塗り

「健康影響と捉えるかどうか明確に判断できる状況ではない」  
12/4

「関連は否定できないものの  
（略）出生後の健康に及ぼす  
影響はまだ不明」 1/26

非公開会合の中で  
評価が変わった



# まとめ

## ・実質的なリスク評価が非公開会合で行われた

非公開会合の中で極めて重要な判断に関わる検討は行われた：公開会合の3倍の開催回数、2.5倍の開催時間にも及ぶ非公開会合の中で、「発がん性」などの重要論点の評価が変化した。評価は黒塗り。いずれもこの根拠は示されていない。。

例) 腎臓がん：🇺🇸7万人規模の疫学調査が示唆した＜PFOAと腎臓がん＞との関連を「関連あり」から「関連なし」に読み替えた。  
<Barry et al, 2013>

例) TDI：非公開会合 (22回目：2024年1月15日)の配布資料では、TDIを20ng/kg/日とすることに懸念を示す委員からのコメントが複数、記載されたが、11日後の公開会合（第7回：2024年1月26日）の評価書で「PFOS 及び PFOA の TDI として＜20ng/kg/日＞と設定することが妥当と判断」された。

差し替えは非公開会合で行われた：非公開会合の中で事前選定では「低評価」で選ばれなかった文献や、R2年以降の水の測定結果などに置き換えられた。開示資料では、委員名も評価内容も全て黒塗り。

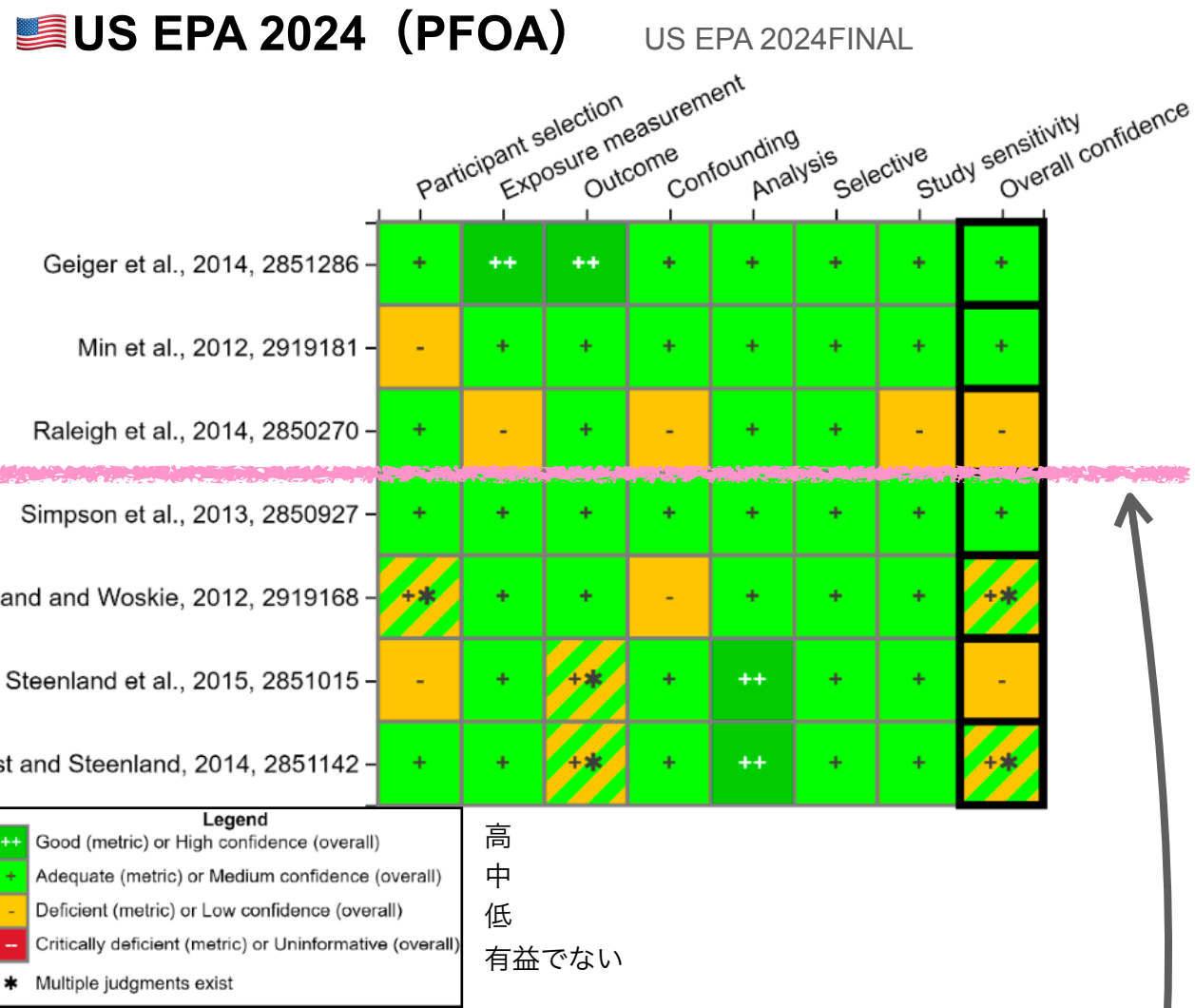
## ・にもかかわらず、非公開会合24回全ての「議事の記録」が欠落。7回分の重要な非公開会合は「配布資料」すら欠落（「発がん性」「免疫」「耐容一日摂取量」等）。

## ・食安委の運営規定には「非公開会議の議事録を公開」と明記されている。

「非公開で開催された会議の議事録の公開に際しては、暫定的に発言者氏名を除いた議事録を公開し、さらに会議開催日から起算して3週間後に発言者氏名を含む議事録を公開する」とある。食品安全委員会の公開について（平成15年7月1日食品安全委員会決定）, 3 (2)

- ・作成していない場合：運営規定違反。国民への透明性と説明責任の放棄にあたり、TDI含め評価全体の信頼性を大きく損なう。
  - ・作成しているのに、委員会で「廃棄した」「作成していない」と説明した場合：組織的な隠蔽に当たる可能性も。
- いずれにしても、**食品安全行政全体への信頼が根本から揺らぐ事態**。食品安全委員会とPFAS WGは明確な説明をする必要がある

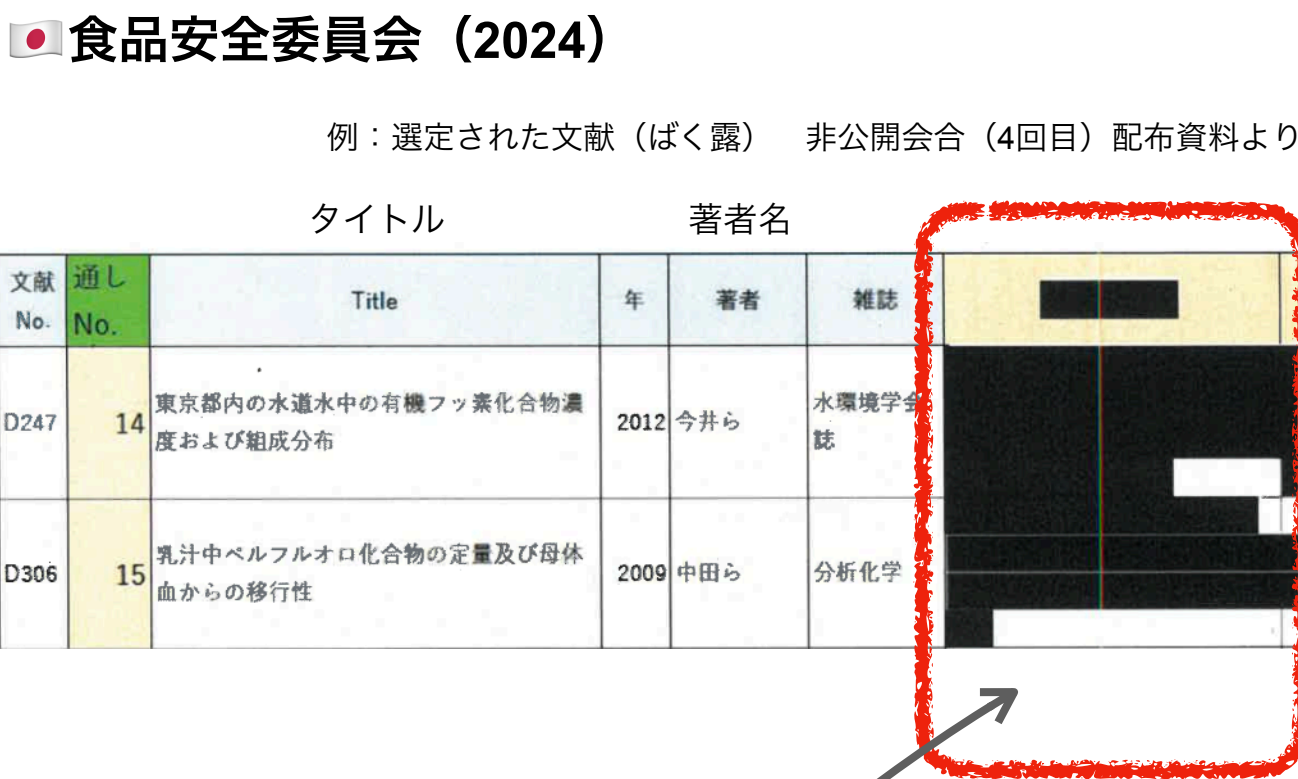
問題点①：Metrics＝数値化された評価基準がない（国際標準と日本の違い）



・評価基準とHeatmapがある  
→第三者が検証できる

PFOAと腎臓がんとの「関連なし」で引用された文献  
**<Raleigh et al. 2014>**

 EPA信頼性評価は「Low」信頼性が低い

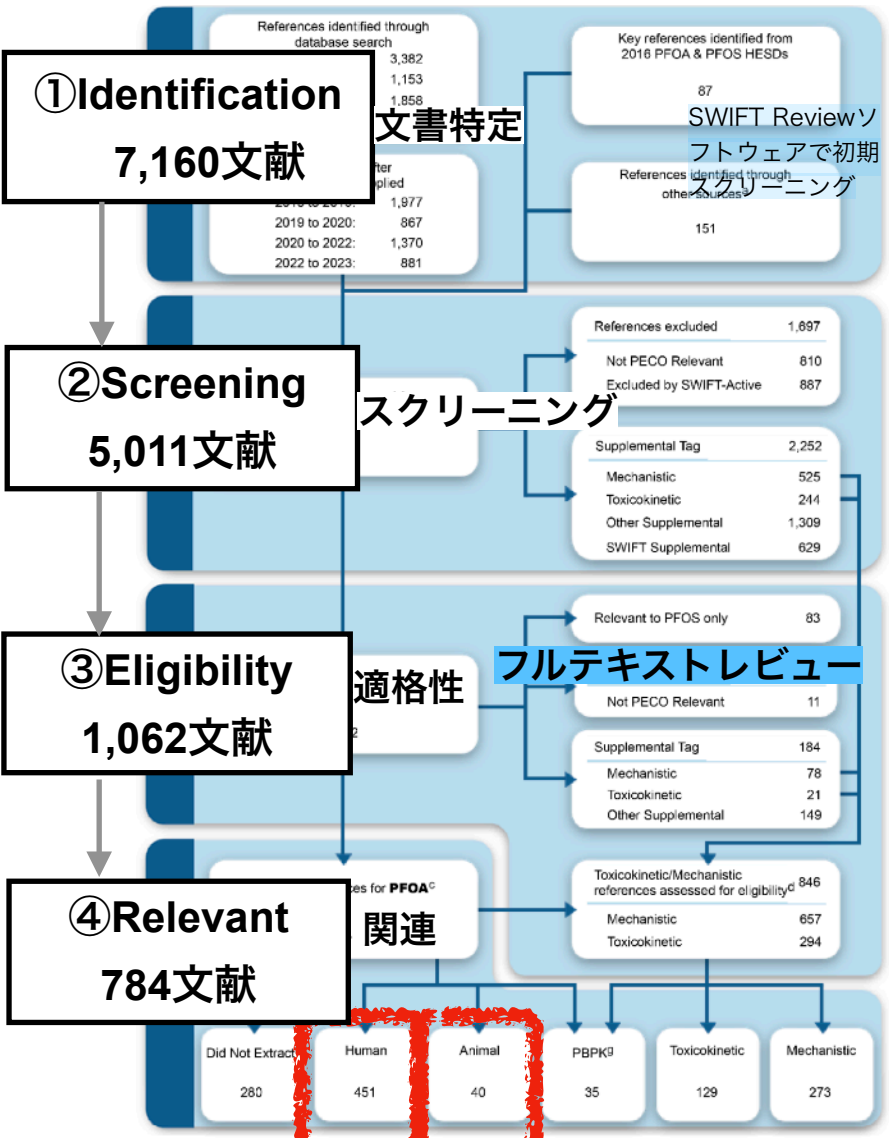


・評価基準がない「委員のコメント」だけ。  
しかも非公開会合資料で、評価は黒塗り  
→評価の妥当性が第三者が検証できない

 PFAS WG非公開会合＝根拠なく追加できる

問題点②：文献選定プロセス（国際標準と日本の違い）

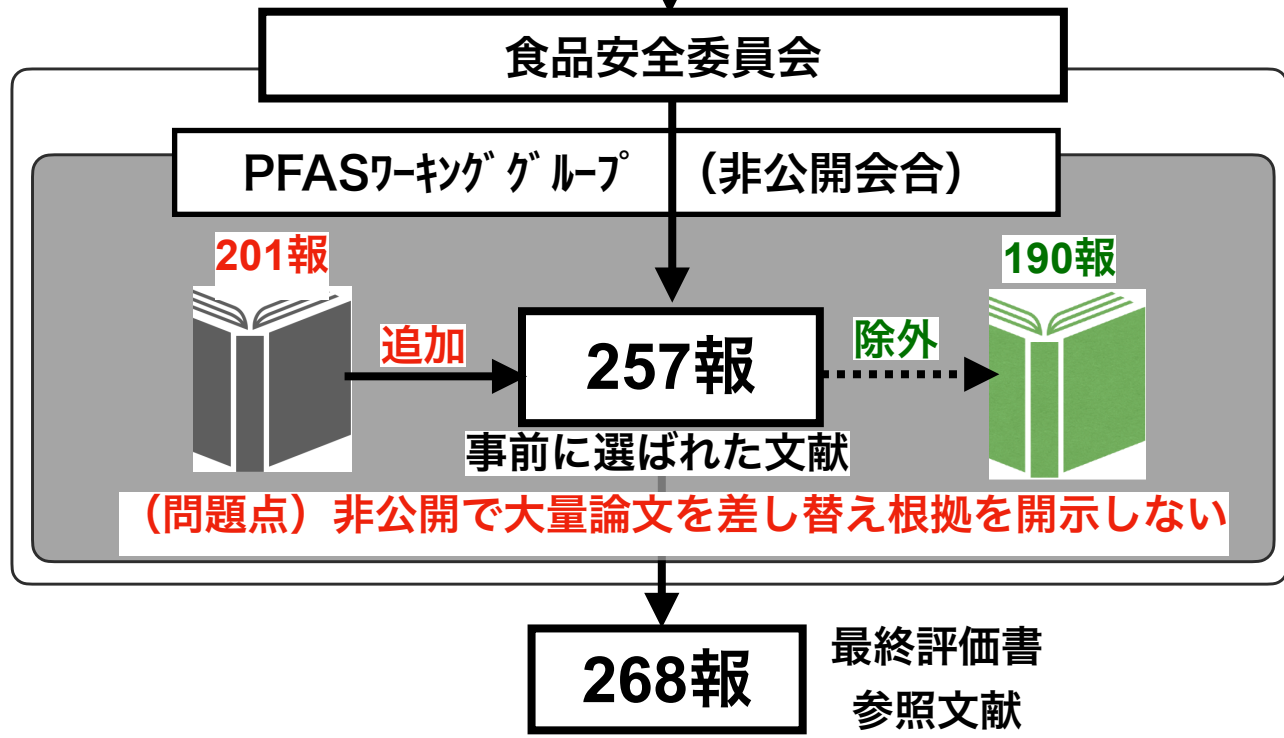
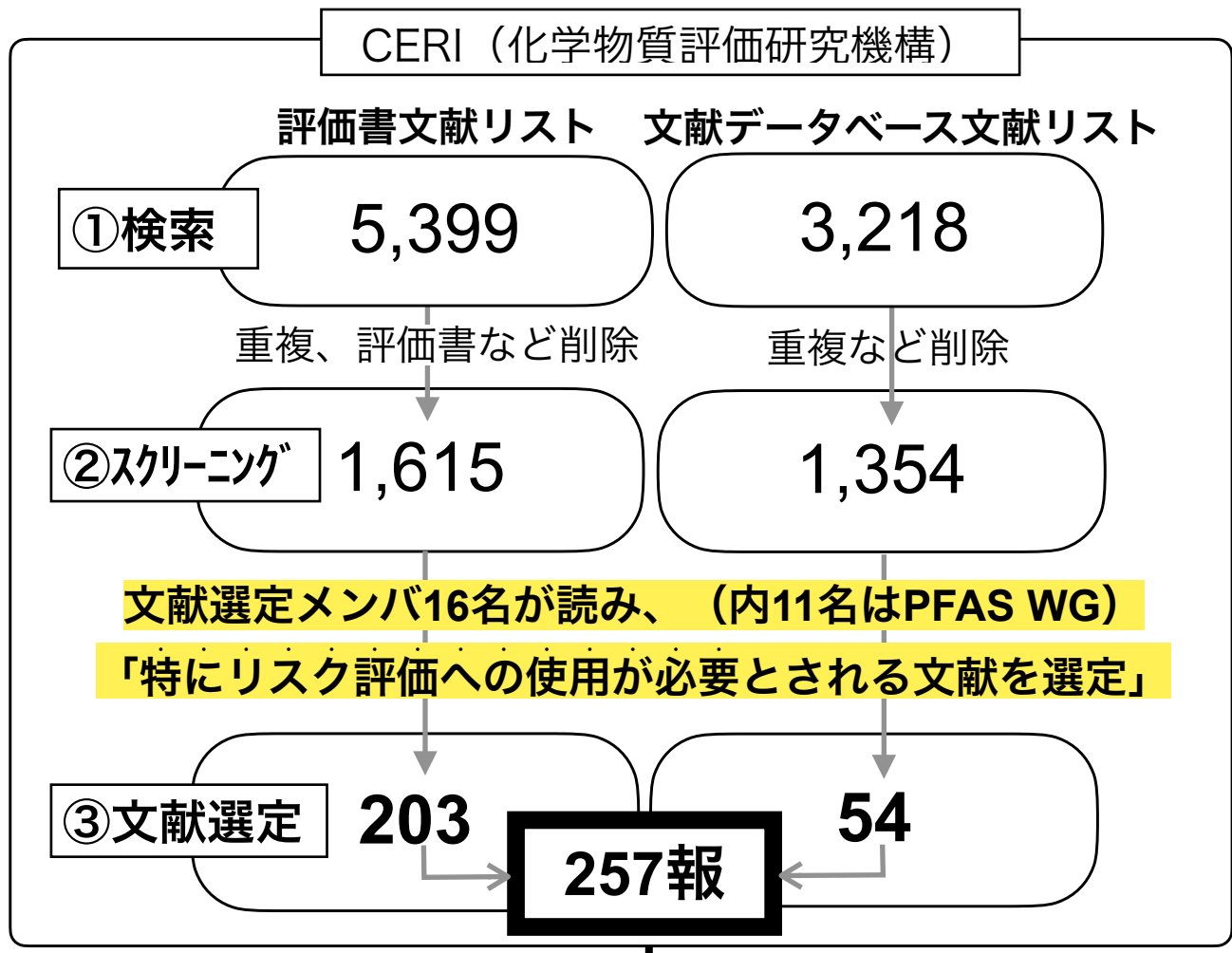
**US EPA 2024 (PFOA)**      US EPA 2024FINAL



**疫学 動物 451報 40報**  
← ここは動かさずに  
研究の質を  
評価、記録してゆく

【重要】国際的なリスク海外評価機関（EFSA、IARC、US EPA）では、文献検索方法、選定基準、クリティカル・アプレイザルの結果（各研究の質評価）を詳細に報告書に記載することが標準となっている。

**食品安全委員会（2024）**



文献評価・開示  
A,B,C,D 評価あり  
文献評価・黒塗  
評価基準なし  
根拠説明なし